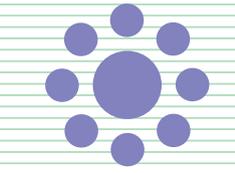




三斎流家元 観翠庵に 新稽古場完成



三斎流

九曜会だより

発行

三斎流九曜会

会長 小林祥泰

事務局 出雲市今市町53



框と玄関までの通路
稽古場ということもあり、頭を少し下げないと入れない造りとなっている。



稽古部屋
障子で仕切られ、六畳(写真奥)と四畳半(写真手前)の二部屋が稽古に使用される。



庭木について
庭には建物とともに成長するようにと、まだ成長途上の北山杉などの庭木が植えられている。



蹲踞
熊本の細川家から、新築の記念にと譲り受けた立蹲踞。



祝 島根大学学長ご就任

小林祥泰九曜会会長には、今春四月より島根大学学長にご就任されました。
家元、宗匠はじめ九曜会会員一同心よりお慶び申し上げます。

家元様の近況——

出雲の茶道文化振興発展に向け
様々なご活動をされる

宗浦家元による連載企画「日日茶話」、「続日日茶話」の続編が七月から島根日日新聞紙上でスタートする。

十五日には連載再開を機に、これまでの掲載文を題材にした講演会が、新稽古場を会場に行われ、これまでの経験などを紹介しながら、茶道の魅力について語った。

【掛け軸】子規啼落西山月(しきなきせいざんにつきをおとす)についで

本日掛けられている軸には「子規啼落西山月」と書かれてあります。これは禅語で「平等と差別

(しゃべつ)についての言葉です。ホトトギスが鳴いたから月が西の山に落ちるのではなく、その逆でもない。それぞれがそれぞれの役割を果たしているながら、同じ景色の中にあり、夜を告げるという同



じ意味合いがあります。これを人間に置き換え、お互いがお互いのことをしっかりと知り、認め合うことが差別であり、その上に平等がある、という意味のお軸になります。お茶の世界も同じで、よく敷居が高いと言われますが、敷居が全くないのがこの世界です。よく一座建立と言われますが、天下人も町民も同じ畳の座につき、同じ目的を果たそうとします。しかしながら、実際にはそれぞれの立場、役割があり、ルールがあります。それをしっかりと踏まえることで、皆が居心地の良い空間を作り出すことができます。

【茶茶碗(のかせ)についで】

表千家堀内宗心宗匠に師事することになった頃、当時の私は、まさか自分がその世界に入ることになるとは思ってもいず、あまり興味を持てるものが見つけられませんでしたが、「茶焼」の茶碗に出会ってから衝撃を受け激変しました。時間を見つけては、楽美術館(京都市上京区)や周辺の美術館へ、茶茶碗を目的に出掛けておりました。そうしているうちに、自分のものが欲しくなりませんが、高価な代物なのでなかなか手が出ません。その分贋作が多いことで有名で、市場に出ているもののうち、約九割が贋作と言わ

れております。こちらの「野風」は、インターネットオークションで入手したもので、先に言いますと、「野風」は音読みで「ヤフー」となります。当時の小遣いを考えますと、生きた心地がしなかったほど思い切って買いました。周囲からは「本物のわけないだろう」と言われましたが後日、楽(吉左衛門)さん本人に見てもらい、すつと手でなぞっただけで「親父のすね」と言われたその瞬間はすぐうれしかったことを覚えております。

【茶家の灰についで】

幼少の頃より、「お茶の家にとって灰は何よりの命だ」と言われてきました。灰には色々と種類がございます。まずは風炉に入っていた灰。こちらを「ジョウ」と呼んでおります。これがスタートとなり、様々な不純物を取り除くために、樽に水を張り洗います。それを乾かした後、通常は番茶を使いますが、こちらではお抹茶を使い染める作業を行います。と言っても色が変わるわけではなく、その灰を炉に入れ使い続けることによって色が変わり、質も良くなっていくのです。そこに至る年月はお金に変え難く、茶家の宝と言われる所以であります。ただ、いくら良い灰だと言っても、使わ

なければそこで止まってしまいます。日々お稽古などに使うことで、生き生きとした灰が出来てくるのです。

【三人の親父についで】

私には三人の「親父」と呼べる方々がおります。一人は実の父親。もう一人は堀内宗匠。そして建仁寺管長の小堀泰蔵老師です。建仁寺は日本最古の禅寺とされており、お茶の世界とも非常につながりの深いお寺で、こちらで修行をさせていただきました。私は小堀老師の初めての弟子になることかと思いません。堀内宗匠は、それまで私がイメージしていたお茶の宗匠の姿とは全く違ったお方です。誰よりも早く掃除に出ておられ、非常にかくしゃくとしておられます。こうして私が書く文章も、新幹線や車の中でお話を聞かせていただいたことがベースとなっており、七月からも、常日ごろ、こうして稽古の中などでお話ししておりますことを、書かせていただければと思っております。どうぞまた、ご愛読よろしくお願ひ致します。

※この記事は去る6月29日付け島根日日新聞社掲載によるものです。

九曜会事業報告

平成二十三年七月～二十四年六月

九曜会総会

平成二十三年七月十七日(日)

ホテル武志山荘

平成二十三年度総会が、会員九十七人の出席のもと盛大に開催された。会長様、宗浦家元様のご挨拶に続き二十二年度の事業及び決算報告二十三年度の事業計画、予算案の審議が承認可決された。

又、今年からは宗浦家元のお考えにより、「二階山茶花の間」にて薄茶席が設けられ、直門が担当した。

午後は茶道家山崎仙峽先生の「茶の湯の歴史」茶禅一味と題しての講演があった。講演内容については後日講演特集号を発行する予定。

東福寺退耕庵 月釜

平成二十三年七月三日(日)

京都東福寺退耕庵

退耕庵の月釜に家元様が掛釜のご奉仕をされ、直門がお手伝いを見せて頂いた。



出雲大社亀山茶会

平成二十三年九月十八日(日)

北島國造館 奥書院・亀山新館

今年は第二十五回目となり豊穰に感謝し、家元による献茶が行われ、続いて奥書院で薄茶席、亀山新館では洋服席にて一服頂いた。

一六〇人の来席者で賑わった。

席担当者より、真夏のような蒸し暑さには閉口した。事前の暑さ対策も必要ではなかったかとの反省もあった。

席担当 奥書院・福岡社中

洋服席・直門



十六善神を偲ぶ会

平成二十三年十月二十三日(日)

平田本陣記念館

今年は平田の文化祭行事に併せて開催された。三八三人の来席者で

賑わった。深緑の木々と紅葉の中の茶会は来客者を楽しませた。

席担当 山田社中・下垣社中

加儀社中

一畑寺茶会

平成二十三年十一月十三日(日)

一畑寺

紅葉には少し早いように感じたが、庭に打ち水がなされ、清とした空気の中でお客様を迎えることが出来た。三九二人の来席者で盛会裏に終えた。

席担当 大田社中・安来社中



明々庵茶会

平成二十三年十一月二十日(日)

赤山茶道会館

今年は六年に一度の席担当となり、家元様のご指導のもと、若手が中心となり、お点前、迎え付け、道具の説明など堂々とした態度で対応し、お客様からのお褒めの言葉もあった。一八〇人のご来席者で賑わった。

席担当 直門

三齋忌

平成二十三年十二月四日(日)

観翠庵道場

薄茶席では掛け軸の「千里同風」をテーマに法要茶会に話題性を絡ませながら穏やかな雰囲気でお茶を楽しんで頂いた。

席担当 濃茶席・杉山社中

薄茶席・杉原社中



早春の茶会

平成二十四年三月二十五日(日)

出雲文化伝承館 松籟亭

今年は十九回目を迎え、広く定着し出雲の春の風物行事になっ



た。五〇〇人を越すお客様であったが、茶席での役割分担がきちんと出来ていたため無事に終えることが出来た。

席担当 佐藤社中・山本社中



出雲教設立一三〇年奉祝行事

平成二十四年四月六日(金)、七日(土)、八日(日)

北島國造館

一三〇年を記念して亀山新館の内部も大改装された。清々しい新緑の中で桜を眺めながらゆつたりとした呈茶席には約一五〇〇人の信徒の方々が楽しまれた。

席担当 大平社中・今岡社中

大野社中・沼社中



○新樹の茶会

平成二十四年四月二十九日(日・祝)
観音寺書院・観翠庵道場

観翠庵道場を広く他流及び市民の方に親しんで頂く唯一の茶会である。今年は二一〇人の来席者で賑わった。

濃茶席では庭の新緑も美しく新樹の茶会にはとても相応しい気持ちの良いお茶会だった。

薄茶席では典子先生ご指導の十七人の子供達を見て、茶道の心が育っていることにとっても心強く又嬉しく思った。

席担当

濃茶席・伊藤・樋野社中
薄茶席・山崎智社中

○出雲大社大茶会

平成二十四年五月十五日(火)・十六日(水)
出雲大社 社務所

十五日は天候も悪く五二〇人の参加人数であったため、とてもゆったりとした席でお客様からは気持ちの落ち着くとも良い茶席でしたとの言葉をいただきました。

十六日は準備も手際よくでき、平日の茶会にもかかわらず七八〇人の方に席入りをしていただき、盛会に終えた。大徳寺納豆入りのお菓子が好評だった。

席担当

辰村社中・野々村社中・加茂会

○講習会

平成二十四年六月十七日(日)
出雲文化伝承館 松籟亭
研修部活動

大蓋、長板一段いづれも薄茶点前、掛け軸などの扱いについての研修が行われた。

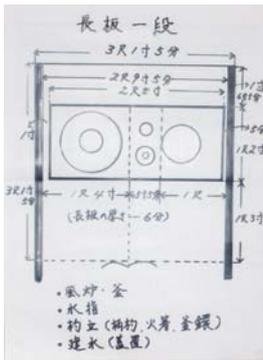
まず家元様のご挨拶に始まり、講話は日頃疑問に思っていることを質疑応答形式で、最初の質問はお菓子の銘について、次に楽茶碗についての質問があった。家元は夫々について楽しくお答えになられた。その後、辰村先生の指導により大蓋の模範点前を、昼食を挟んで午後からは二手に分かれ、家元様ご指導の掛け軸の取り扱い方、そして山崎智恵子先生の指導による長板一段の模範点前が行われ質疑応答も交えた有意義な研修会となった。



薄茶席(富士の間)掛軸・花



濃茶席(観音寺書院)床飾



初代会長 宗育宗匠のごあいさつ



二代目会長 宗浦家元のごあいさつ
獨座大雄峰 宗瑞宗匠 一行書



薄茶席 幽松庵 家元、暖花さん、辰村副会長、他

観翠庵直門会設立十周年記念

と き 平成二十四年五月二十七日(日)

と ころ ホテル武志山荘

十一時〜薄茶席 幽松庵

十二時〜祝賀会 三階「富士の間」

正式に直門会として発足以来、十周年が経過し、その十年間の回顧と未来に向けての、更なる直門会の充実を図る素晴らしい記念の祝賀会となりました。写真の一部で紹介させていただきます。